

==毎朝の窓の開け閉めが私の日課==

健康的な住宅を考えるって大賛成です。「家と人の健康」つて通気性の良い住いのことなんですよ。私の実家が今もって昔そのままの、あちこち隙間だらけのみすぼらしい家屋なんですが見かけとは裏腹に、これって結構健康的なんです。おまけに雑貨店をしているんで年中開けっ放し、お客さんが来るたびに冷気が容赦なく寝間の奥まで入り込んで、暖房器具などほんの気休めでした。

4姉妹の私たちは、母のこの店の手伝いをしながらこんなに通気性抜群？の旧家で育ちました。この連休の帰郷でも、いつも通りの息抜きと目一杯の森林浴を満喫して心身共の洗濯をしまりました。

私は結婚してすぐさま一戸新築に住めたんですが、その地はまだ環境が良かってもので、その後社会問題まで発展したシックハウス問題：喘息やアレルギー症状などはそれほど気にしておりませんでした。でも私には判っていたんです、家屋の新建材がなんとなくプラスチック臭、お腹の子供の為にも食材と空気だけは混ざりけなく純粋にしておこうとね。だから私たち4姉妹は、今はおばあちゃんになった母と共に元気そのもので、年末年始の開放の寒冷気でも平気でした。なのに主人や子供達はストーブの確保、そしてお客さんのドアが開かれる度に奥の土間ではプープーなんです。

程なくして、主人の実家に移り住んだここN県では私と長男は花粉症とダストに悩まされています。正直なところ私は健康にありたいという感性、第6感抜群なんです。主人に言わせますと鳩舎の女、で非常にピュアー」（笑い）だそうです。人は皆そんなの当たり前よ！と講釈。だって本当に毎年のことなんですが、“この花粉は西南のあの山の、ほらあそこから”とか“いよいよ中国から黄砂がきたよ、それもツンとした排煙混じりのね！”など気象予報の相当前から感じちやうんです。ましてや天気予報など体感にビリリ！と感じます。

「住育」つて良い住宅環境作りの教育をしよう、の意味だったらそれは「感じる」を学ぶことだと思います。私達が今住んでいる地域や家屋の、そんな環境を素直に受け入れて自分で守る、造作された建築物に面と構えて立ち向かうのもいいでしょうがほんの30年ほど前までの自然環境（田舎の風情）を思い出せば自ずと工夫も出てきそうですね。工務店さんや住宅メーカーさんもこんな感性を思い出してくださいませ。人と住いの良い環境とは「自然を感じること！」だと思います。少し大袈裟ですが私は今地球の環境を感じやつてます。

だから政府も諸外国も「地球を何とかしよう」とやっとなつてきたでしょう。

こんな「気付く！感じる！」を伝えていくことが‘住まいの教育＝住育’であると思うのです。

「毎朝の窓の開け閉め」をそつと主人の枕元から行うのが私の日課なんです。

「寒い、閉めろ！」なんてもう言わないようになりました。早朝5時ごろの埃も塵も沈下し、実に寝静まりの十分にピュアーな冷気ほど人と住宅の健康に勝るものはありません。

2009年9月29日 宮本ちづ子